

立山黒部アルペンルートと宇奈月温泉郷

(株) 第一コンサルタント 右城 猛

1. まえがき

岐阜大学の八嶋研究室が企画した「黒部川第四発電所見学ツアー」に家内と一緒に参加させていただくことになった。

このツアーは、7月6日(月)12時にJR岐阜駅をバスで出発し、白川郷を經由して17時に宇奈月温泉郷の宇奈月ニューオータニホテルに到着。翌朝7時45分にホテルを出発し、黒部渓谷、黒部川第四発電所、黒部ルート、黒部ダムを見学。信濃大町駅からバスで岐阜に帰るものであった。

高知から岐阜に行くとき時間ロスが多いので、私たちは6日の夕方、宇奈月温泉に直接行くことにし、それまで「立山黒部アルペンルート」を観光することにした。

2. 高知から立山へ

7月5日(日)の朝7時30分にマイカーで自宅を出発。岡山駅の近くの駐車場に車を預け、岡山から立山までは列車を利用することにした。

『岡山 11:14 (のぞみ 18号) 11:58 新大阪 12:13(ひかり 516号) 12:49 米原 12:59(しらさぎ 7号) 15:28 富山。電鉄富山 16:01(地鉄立山行) 17:06 立山』

高知岡山間をマイカーとしたのは、見学を終えてその日のうちに高知まで帰る必要があったためである。JRを利用すると、岡山駅発の南風の最終便が20:05なので、信濃大町駅15時4分発のあずさ26号に乗る必要があるが、それは行程的に無理と思えたためである。



JR 富山駅の隣にある電鉄富山駅



電鉄富山の二両編成の電車



富山地方鉄道の経営は厳しいようで、台風が来れば吹き飛ばされそうな駅舎がいくつかあった。古い木造岩峯寺(いわくらじ)駅もその一つ。

プラットホームが短い駅では、先頭を走る車両の扉だけが開く。



電車が常願寺川を渡る際には、乗客が左右の景色を見られるように鉄橋の上で一旦停止してくれる。地方鉄道らしいサービスである。



17:06 立山駅に到着する。1階が電鉄富山の立山駅。駅舎の2階が立山ケーブルカーの立山駅になっている。2階から外に出ると、そこがバスターミナルになっていた。

電話を掛けると、宿泊を予約してあったウェルサンピア立山から送迎車が来てくれた。



朝食を断って、朝7時にホテルを出発する。立山駅 14:24 発のアルペン1号に乗るため。立山駅から直通で宇奈月温泉へ行く特急はこれしかなく、乗車時間が大幅に短縮されるのである。

5時に起きて温泉に浸かっていた頃には雨が降っていたが、出発するときにはすっかり天気が回復していた。



念願の立山にやっと来ました。



今年の11月から民営化されることが決まっているためか、従業員が何となく元気がないように思えた。



温泉に入り、19時からレストランで食事。アサヒの生ビールで乾杯した後、地ビールを置いてあることに気付く。秘境黒部ビール、宇奈月十字峡、越中風雅の3種類。このホテルで最も人気が高い秘境黒部ビールを飲む。口当たりが優しい。

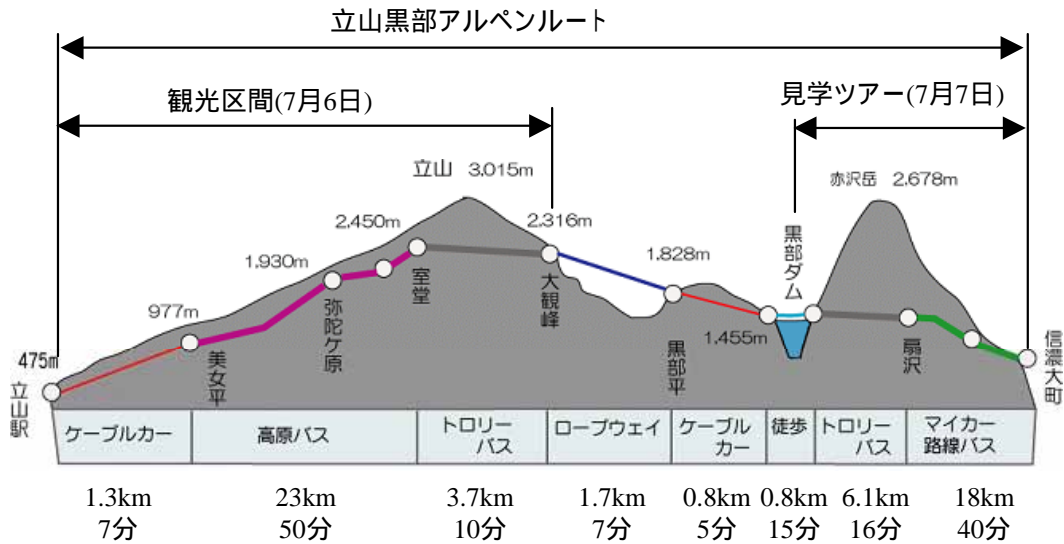
3. 立山黒部アルペンルート

観光区間

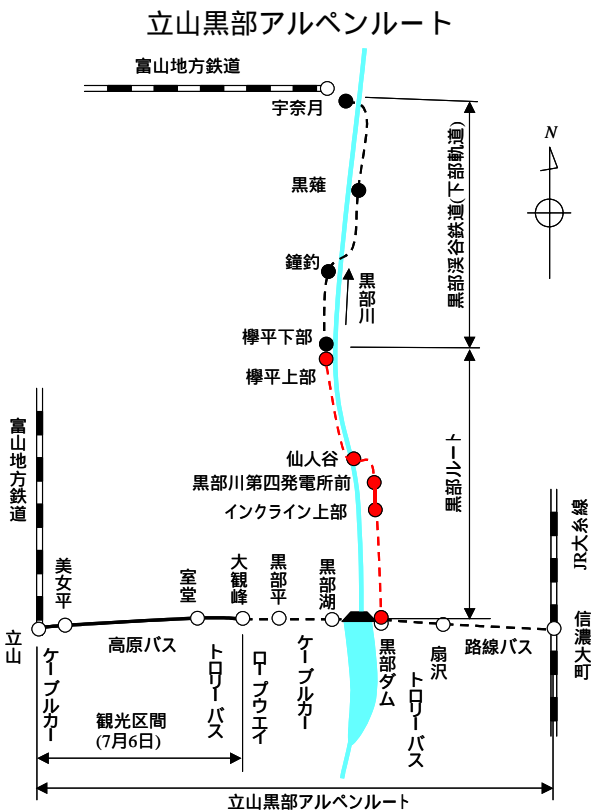
立山黒部アルペンルートとは、富山地方鉄道(電鉄富山)の立山駅から黒部ダムを通して長野県のJR信濃大町駅に抜ける全長55.4kmの区間である。

私は昭和47年に、当時勤務していた四国建設コンサルタントの慰安旅行で来ているが、雪の大谷以外は記憶に残っていなかった。

立山黒部アルペンルートを移動するには、立山黒部観光(株)が運行するケーブルカーや高原バス、トロリーバス、ロープウェイを利用しなければならない。



立山から室堂へ



観光ルート

17時に宇奈月温泉のホテルで八嶋研究室のグループに合流する必要があった。このため、観光は大観峰(だいかんぼう)までとし、大観峰から引き返して来て、立山駅から電鉄富山で宇奈月温泉に入ることにした。

時間の関係上、散策は室堂のミクリガ池の周囲のみとした。



立山駅 7時20分発のケーブルカーに乗る。立山ケーブルカーの長さは1.3km。勾配は24~29度。45度くらいありそうに見える。2台のケーブルカーがツルベ方式で走行しているため、中間地点で離合する。客車の下に荷物を運ぶ貨車を連結している。美女平駅までの所要時間は7分。



客車の中は階段状になっている。定員は120名。ただし、椅子は、二人掛けが16個なので椅子に座れるのは32名だけである。



ケーブルカーから見た立山駅とその周辺。外の景色を見られるのは立山駅を少し上がったところだけ。ほとんどの区間はトンネルになっているので何も見えない。



美女平から 5km ほど登ったところにある滝見台でバスは一旦停車する。



美女平駅 8 時 30 分発の高原バスに乗る。室堂までの道のりは 23km。車内にはテレビが取り付けられており、美女平から室堂までの観光ガイドがビデオで流しながら走ってくれるので、見所がよくわかる。



滝見台から進行方向の左手に日本一の落差を誇る「称名滝(しょうみょうだき)」が見える。



道路の両側には原生林が広がっており、ブナ、タテヤマスギが見られる。中には、樹齢 1000 年を越えているというタテヤマスギの巨木も見られる。



標高 1930m の弥陀ヶ原(みだかはら)まで登ってくると、原生林はなくなり高原植物だけとなる。



室堂駅の少し手前で、道路の両脇に高い雪の壁が現れた。これが有名な「雪の大谷」。春先であれば、高さ 20m もの雪の壁が見られるようであるが、今は 7 月なので雪は溶けて少なくなっている。それでも 5~6m の雪壁を見ることができ、感激した。



大谷の雪壁を作るには、このブルドーザーで雪の表面をカンナで削り落とすように少しずつ掘り下げながら作業を進める。

室堂平



9 時 20 分に標高 2450m の室堂に到着する。ホテル立山の正面がバスターミナルになっている。

ここで下車してホテル立山に入る。ホテル立山の中にレストランや、土産売り場、トロリーバスの室堂駅がある。

アルペンルートで人気ナンバーワンの菓子は、室堂限定販売の「立山星の雫」。アーモンドをミルクパウダーで包んだ菓子でとても美味しい。

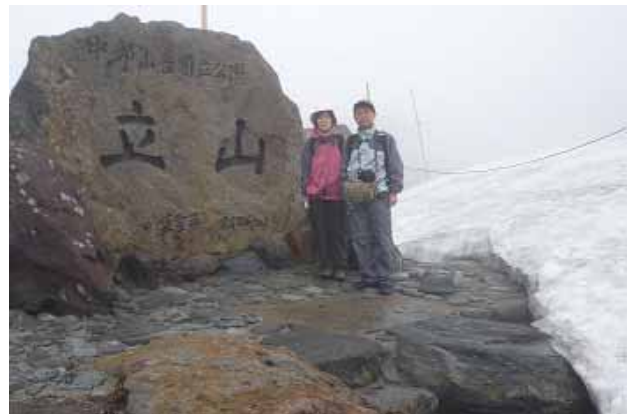
雨は降っていないが、防寒のためにカッパを着る。



ホテル立山の裏が室堂平広場となっている。



室堂平広場に立山玉殿の湧水（たてやまたまどのゆうすい）がある。立山黒部アルペンルートの立山トンネルの開通により、室堂に噴出した湧水である。2~5 と非常に冷たくて美味しい。



室堂平広場にある記念碑



室堂広場から北に上り、「ミクリガ池」の周囲を散策する。散策コースの歩道は舗装され、歩道の両側には柵が設けられている。自然を守るため柵の外に出ることは禁止されている。



ミクリガ池は1万年前の火山活動によってできた水深15m、周辺630mの火山湖。霧が立ちこめて視界が悪い。真っ青に澄んでいるはずの湖面を見ることができない。地獄谷温泉からの硫黄の臭いが鼻を突く。



地獄谷への分岐点にある「みくりが温泉」の「喫茶みくり」に入る。立山黒部アルペンルートの最高所にある温泉。地獄谷温泉から引湯をしている。ホテルでの朝食は、自動販売機で買ったカップヌードルだけであったので、ここで真っ黒い温泉卵とコーヒーでお腹を満たす。



この花の名前は何だろうか。キンポウゲ科のハクサンイチゲだろうか？

アルペンルートの楽しみは、散策しながら高山植物や野鳥の観察にあるのだろうが、植物や鳥の名前はさっぱり分からない。



ハイマツの林。雷鳥の産卵場所になるようである。



コバイケイソウ。ユリ科の植物。



ライチョウ保護区域と書かれた看板。ライチョウに遭遇することを期待させられる。



幸運にもライチョウ(雷鳥)に出会う。しかも、雄と雌のつがい。オスのライチョウには、目の上に朱色の肉冠(にっかん)がある。

ライチョウは国の特別天然記念物で、絶滅危惧II類に指定されている。標高 2,400メートル以上で生息する高山鳥と言われている。



散策路の柵の内側からライチョウを撮影



観光客の中には、柵から出てライチョウに接近して撮影する不屈き者もいる。人間に慣れているのか、近くに寄ってもライチョウは逃げない。



霧に包まれてミクリガ池が見えないが、突然霧が晴れて視界が開けることがある。



室堂山荘



室堂平広場。8時30分頃には観光客は少なかったが、11時頃になると観光客も増えてきた。



石で覆われたお地藏さん



散策路の柵を越えて雪渓で遊んでいるのは、韓国か中国から来た観光客。係員が柵から出ないようにと注意をしているが、なかなか言葉が通じないようである。



室堂山荘がある北の方には1m程度の積雪が残っていた。



残雪の下端が、その前にある転石の形でへこんでいる。転石が前に移動したのだろうか、それとも残雪が後退したのだろうか。どのようなメカニズムでこのようになったのか不思議である。



イワヒバリ。カメラを近づけても逃げない。

大観峰

大観峰(だいかんぼう)は、標高2316mの絶壁に造られた展望台。後立山連峰と黒部湖を一望することができる。



大観峰に行くため、室堂駅 11 時 25 分発のトロリーバスに乗る。

日本でトロリーバスが走っているのは、室堂・大観峰の間を走る立山トンネルトロリーバスと、黒部ダム・扇沢の間を走る関電トンネルトロリーバスの 2 つのみ。

トロリーバスが走っている所はすべてトンネル内であるので、外の景色は見るできない。



大観峰駅着いたのは 11 時 35 分。展望台に上がっていった時には後立山連峰や黒部湖が良く見えたが、すぐにガスがかかってしまった。このため、5 分程度いただけで展望台を降りる。



絶壁に造られた大観峰の展望台。周囲の山には残雪が見られる。



大観峰 11 時 45 分発のトロリーバスに乗って引き返す。

立山

立山駅へ帰り着いたのは 13 時。アルペン 1 号が発車 14 時 24 分までは時間がたっぷりあるので、昼食をとった後、立山駅周辺を散策することにした。



ケーブルカーの立山駅から外に出た所に、「熊王の水」と書かれた泉がある。ここから旧登拝道を約 2 km 登ったところに熊王社があり、立山の雄山神社を参詣する者は、ここに立ち寄って「熊王の清水」で喉の渴きを潤したと言われている。



1階にある電鉄富山の立山駅。



立山駅の下を常願寺川（じょうがんじがわ）が流れている。立山連峰に源を發し、富山湾に注ぐ一級河川である。

「常願寺川」の由来は、氾濫が起きないようにと常に願っていた人々の気持ちを込めて名付けられたと言われている。

約3000mの標高差に対し、川の延長は僅か56kmという世界有数の急流河川である。明治時代、常願寺川の改修工事のために政府から派遣されたオランダ人技師ヨハニス・デ・レーケが、「これは川ではない。滝である」と言った言葉は有名。

江戸時代の末期の立山カルデラで大規模な崩落が発生して以来、砂防工事が現在まで続けられている。立山カルデラにたまった土砂は約2億立方メートルで、全て流れ出すと富山平野の全体が平均2mの土砂で覆われると言われている。

今年の6月20日、映画「劔岳・点の記」のロードショーが始まっているが、常願寺川の川原で、豪雨の中で室堂のベースキャンプを解体するシーンや、撤収の雨の中で陸地測量部からの電報を読む柴崎芳太郎の姿が撮影されたのである。



立山駅の玄関に映画「劔岳・点の記」の看板があった。6月26日に映画を観たばかりであったので、看板に書かれていた場面を思い出した。



「劔岳・点の記」の撮影に使われた川原



常願寺川(正確には,常願寺川支川称名川しょうみょうがわ)の左岸側には親水公園があり,砂防施設のミニチュアが造られている。さすが,わが国における砂防のメッカである。



常願寺川に沿っての右岸側を走る県道 43 号富山上滝立山線。たくさんのスノーシェッドが見られる。

4. 宇奈月温泉郷

15 時 56 分, 電鉄富山宇奈月駅に到着する。立山駅から直通の特急であるので,1 時間 32 分で到着した。寺田駅で乗り換える普通便であれば,2 時間以上かかる。

宇奈月駅に着くと,何の連絡もしていないのにホテルから出迎えが来ていた。宇奈月ニューオータニホテルに宿泊する客は,私たち夫婦だけであった。どうも,列車が着く度に,どのホテルのからも宿泊客を捜しに来ている様子であった。

送迎車でホテルまで連れて行ってくれたが,歩いてもすぐの所であった。

黒部川第四発電所見学ツアーの一行がホテルに到着するのは 17 時の予定であり,それまで 1 時間ほど余裕があったので,温泉街を散策することにした。

宇奈月温泉に来たのは 37 年振りであり,以前

のことはほとんど記憶に残っていない。覚えていたのはコンクリートアーチ橋の面影橋だけであった。

宇奈月温泉郷散策



宿泊した宇奈月ニューオータニホテル



ホテルの部屋から外を眺めると,新山彦橋と山彦橋(手前の橋)が見える。



ホテルの部屋からの眺め。黒部川の右岸を走る道路には,プレキャストコンクリートのスノーシェッドがたくさん施工されている。



面影橋の上から眺めた黒部川

宇奈月温泉郷の北を黒部川が東から西に流れている。温泉郷の東端には山彦橋と新山彦橋が架かっている。いずれも朱色に塗られた上落式ランガー橋。温泉郷の西端には、鉄筋コンクリート造で上落式アーチ橋の面影橋が架けられている。

面影橋の袂には、昭和天皇や与謝野鉄幹・晶子夫妻らの歌碑が建てられている。



面影橋の左岸には、ユニークな形をした展望台がある。設計はスペインの建築家。



ガイドブックを見ながら温泉街を散策する。



ウイークデーであるためかも知れないが、観光客の姿は全くなし。寂れているという印象を強くもった。

見学会ツアー一行の宴会

見学会ツアーの一行がホテルに到着したのは18時前であった。

19時よりホテル1階の「花あらし」で宴会。沢田先生の司会、八嶋先生の挨拶で宴会が始まった。

宇奈月温泉に本社がある大高建設株式会社から地ビール「宇奈月ビール」と日本酒の差し入れがあった。宇奈月ビールには、十字峡、トロッコ、カモシカの3種類がある。それで乾杯をする。

宴会の後は、ホテル内のクラブ「花御堂」でカラオケを楽しむ。

八嶋先生、沢田先生をはじめ、八嶋研究室の皆さんはとても明るくて楽しい。音痴の私も、そのムードにのせられて、数年ぶりにマイクを握っていた。

宇奈月温泉の歴史と宇奈月温泉事件

黒部峡谷には、昔から鐘釣温泉、黒雑温泉、祖母谷温泉など多くの温泉があるが、これらの温泉が多くの人に知られるようになったのは大正中期以降。黒部川の電源開発が進められるようになってからである。

宇奈月温泉街が誕生したのは、1924年（大正13年）、山田胖が木管を設置して、黒雑（くろなぎ）温泉から引湯してからである。この引湯が原因で、起きたのが宇奈月温泉事件。日本で初めて「権利の濫用」という判決（昭和10年）が出されたことで有名な事件である。



昭和初期から昭和 30 年頃まで使用されていた引湯管（赤松材をくり抜いた 8 インチ木管）。

宇奈月温泉の源泉である黒薙温泉から下流の宇奈月まで約 7 km にわたって木管が設置された。木管が民地を通過した部分はわずか 2 坪弱で、土地所有者の了解を得ていなかった。原告は、これに目をつけて旅館経営者から利益を得ようとして、土地を所有者から買い受けて所有権を取得し、被告・黒部鉄道株式会社（旅館経営）に対して、

土地と周辺の土地を合わせて約 3、000 坪を高額の代金で買い取るとを請求した。黒部鉄道が土地の買取を断ると、原告は土地所有権に基づく妨害排除として引湯管（木管）の撤去と木管修理などのための土地への立入り禁止を請求した事件である。

第 1・2 審は原告の請求を退けたため、原告は大審院に上告した。大審院は「権利の濫用」という文言を判決文中で初めて用い、原告の請求である所有権の行使は権利の濫用にあたるため認められない、として請求を棄却したのである。

5. あとがき

今回の旅行は梅雨の季節でもあり、雨に降られることを最も心配していたが、ツアーのメンバーに「晴男」や「晴女」がたくさんいたお陰で天気に恵まれた。

6 日、7 日の両日とも、早朝にはかなり強い雨が降っていたが、ホテルを出発する頃には雨も上がっていた。

(2009 年 7 月 11 日・記)

